

令和6年4月24日

市政記者クラブ 様

観光文化交流局名古屋城総合事務所
名古屋城調査研究センター
担当 瀬川、三矢 電話 231-2481

名古屋城への刀剣等寄贈に対する紺綬褒章伝達式を実施します

刀剣等貴重な文化財26点の名古屋城総合事務所への寄贈に対し、紺綬褒章が発令されましたので伝達式を実施いたします。ぜひご取材ください。

記

1 概要

日 時：令和6年4月26日（金）10：30～10：45

場 所：市長室

出席者：加藤^{かとう} 千博^{かずひろ} 様（寄贈者）

河村市長、観光文化交流局長、名古屋城総合事務所長 ほか

2 寄贈について

寄贈日：令和5年1月10日

寄贈品：刀剣・甲冑等26点（評価額1054万3千円）

3 主な寄贈品

- (1) 短刀^{たんとう} 朱銘^{しゅめい} 康継^{やすつぐ}（本阿弥花押^{ほんあみかおう}） 附^{つけどり} 梨子地^{なしじ} 葵紋^{あおいもん} 蒔絵^{まきえ} 合口^{あいくち} 拵^{ごしらえ}

徳川家康の所持刀で、尾張徳川家から明治天皇へ献上した伝承がある刀剣である。江戸時代の本阿弥家による鑑定で、家康お抱えの刀工・康継の作と極められているが、家康歿後の作とするのが妥当である。附属の拵は、徳川家伝来を物語る葵紋を散らした良質な作品で、家康所持伝承があったことから、大切に守り伝えられたことを物語っている。

- (2) 黒漆^{くろうるし} 塗紺糸素懸^{ぬきんいとす} 威^{がけ} 二枚胴具足^{おどしにまいどうぐそく} 附^{つけどり} 鉄錆地^{てつさびじ} 阿古陀形^{あこだ} 三十二間筋^{なりさんじゅうにけんすじ} 兜^{かぶと}

水戸徳川家10代慶篤^{よしあつ}（1832～68）が所用した甲冑である。慶篤は同家9代斉昭^{なりあき}の嫡男で、15代将軍慶喜^{よしのぶ}の兄にあたる。全軀を紺糸^{おど}で威し良質な黒漆を用いて意匠を統一しており、兜には葵紋^{かたど}を象^{まえたて}った前立を用いる。兜はカボチャを意味する阿古陀形の形状で、胴ともども御三家に相応しい良質な造りの甲冑である。

(寄贈品の写真)

■短刀 朱銘 康継 (本阿弥花押) 附 梨子地 葵紋蒔絵合口 拵 (伝徳川家康所持・伝尾張徳川家伝来)	
	
■黒漆塗紺糸素懸威二枚胴具足 附 鉄錆地阿古陀形三十二間筋 兜 (水戸徳川家 10 代慶篤^{よしあつ}着用)	
	